

在宅医療〈F2〉

講義担当者

神経内科

准教授 村田 顕也

I 一般学習目標

日本の医療行政における在宅医療の位置づけと意義、在宅医療構成チームにおける医師の役割、在宅医療の実際について概要を理解する。

II 個別学習目標

1. 「在宅医療」におけるヘルスケアのアプローチ（目的志向型）を説明できる。
2. 特定機能病院における医療アプローチ（問題志向型）と「在宅医療」の相違を説明できる。
3. 在宅ケア・チームの構成を説明できる。
4. 在宅主治医の役割とチームの指導的・調整的役割を説明できる。
5. 施設療養から在宅療養に移行する患者と家族に在宅医療導入に必要な項目を列挙できる。
6. 在宅療養に必要な介護力の評価について説明できる。
7. 難病患者の在宅医療におけるコミュニケーション法について列挙できる。
8. 在宅医療で頻度の高いヘルスケアについて説明できる。
9. 在宅医療上必要な法的問題を述べることができる。

III 教育内容及び講義日程表

| No. | 月 日 | 曜日 | 時限 | タイトル | 内 容 |
|-----|------------|-----|----|---------|------------|
| 1 | H29. 9. 21 | (木) | 1 | 在宅医療 I | 在宅医療の概要と実際 |
| 2 | H29. 10. 5 | (木) | 1 | 在宅医療 II | チーム医療と在宅ケア |

IV 教育方法

講義：テーマに基づき適宜プリント、スライド、ビデオ教材を使用する。

V 評価の方法

在宅医療の総合的な知識・技能の習得度・達成度を評価するものとし、レポート試験において60%以上の正答率が必要である。講義の出席率も評価される。出席率・態度が優秀であれば、試験の総得点の10%以内の加点を行う場合がある。無断欠席など社会常識にそぐわないような態度がみられた場合、総得点の10%以内の減点も行う。

VI 推薦する参考書

福原信義 後藤清恵編

神経難病患者におけるサポートマニュアル

ー心理的サポートと集団リハビリテーションー

平成13年度厚生労働省特定疾患「特定疾患患者の生活の質（QOL）の向上に関する研究班」